

# 道知P連会報

発行 北海道特別支援学校知的障害教育校PTA連合会 責任者 進野 ゆかり

事務局 〒002-8034 札幌市厚別区厚別町山本751-206

北海道札幌養護学校内 電話(011)896-1311 Fax(011)896-1312

## 巻頭言

北海道特別支援学校知的障害教育校PTA連合会  
会長 進野 ゆかり

本会員の皆様には、日頃より本会の活動に対しまして、多大なる御理解と御協力を賜り、心から厚くお礼を申し上げます。

早いもので、令和に入り8年目を迎えました。この間、私たちは感染症の流行や相次ぐ自然災害など、予測困難な事態に直面してまいりました。しかし、どのような状況下にあっても、子どもたちの学びを止めず、健やかな成長を支え続けてこられた会員の皆様、そして教職員の皆様のたゆまぬ御努力に、改めて深い敬意と感謝を申し上げます。

今年度の全知P連第41回全国研究協議大会東京大会として開催されました。北海道ブロック代表としては、北海道札幌伏見支援学校が「子どもたちの社会参加のために保護者ができること」について発表し、茶話会や地域とのつながりに関する質問があったり、「アットホームで分かりやすかった」との感想が寄せられたりして、関心の高さがうかがえました。発表に際しまして、ご尽力いただきました佐古校長先生をはじめ、PTA会長梅澤様には、御協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

さて、昨今のPTA活動は、ICTの活用や組織の効率化など、大きな転換期を迎えています。本会におきましても「持続可能なPTA」を目指し、対面での交流の良さを大切にしながらも、オンラインを併用したハイブリッド型の運営を定着させてまいりました。こうした変化の中で、私が道知P連の代表として参加させていただきました「全知P連第1回会長・副会長会」の会合に

て、大変興味深い知見を得る機会がありましたので、皆様に共有させていただきたいと思っております。

それは、「アシストガイド」というアプリの活用についてです。このアプリは、日常生活や学習において困り事を抱える方々をサポートするために開発されたもので、以下のような特長があります。

- ・視覚的なスケジュール管理：その日の「やること」と「やりかた」を、写真やイラストを使って目で見て分かりやすく表示できます。
- ・意欲を高める工夫：設定したタスクをクリアするごとに車が前進し、ゴールを目指すというゲーム性のある仕組みが取り入れられています。

「何から始めればよいか」「次はどうすればよいか」という不安を、デジタルの力で「楽しみ」に変え、子どもたちの自立を後押しするこのツールは、学校生活だけでなく、家庭での習慣作りにも大いに役立つものと感じました。こうした便利なツールや各地の先進的な事例を広く共有し、情報交換していくことも、道知P連の大切な役割であると再認識した次第です。

次年度におきましても、本会は「横のつながり」をさらに強め、保護者同士が支え合い、共に学べる場を提供してまいります。各学校の特色ある活動や工夫を尊重しつつ、時代に即したPTAの在り方を皆様と共に模索してまいりたいと考えております。

最後となりますが、会員の皆様の御健勝と、各学校における教育活動のさらなる充実を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。今後とも、本会への変わらぬ御支援と御協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

実践報告

道央地区懇談会

令和7年9月19日

北海道札幌あいの里高等支援学校

テーマ『就労選択支援・年金制度について』

○講師 吉田 志信 氏、小貫 晃一 氏

○講師所属 石狩障がい者就業・生活支援センター  
のいける、社会福祉法人緑伸会

○参加者 148名(内訳：保護者110名、教職員38名)

《内容》

今年度は、会場での参集とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催しました。テーマは、卒業後の生活に向け、どのようなことを考えるとよいか学ぶ機会としたいと本校PTA役員会での意見を集約し、就労選択支援については石狩障がい者就業・生活支援センターのいける所長吉田志信氏、年金制度は社会福祉法人緑伸会総合施設長小貫晃一氏にお話しいただきました。就労選択支援は、令和7年10月から実施される新しい障害福祉サービスであり、本人が就労先・働き方についてより良い選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して、本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援するものであることや、年金制度では、医療期間との関わり方や見通しを持ちながら申請までの準備を進めていくことの重要性をお話しいただきました。



当日参加した保護者の皆様からは、「新しい制度に期待しています。ただなんとなく就労を続けると言うことではなくやって見たいことに臆することなくステップアップしていける支援になると嬉しいです。」「就労選択支援というのが始まる事を初めて知ったのでとても勉強になりました!」「年金も、短い時間の中で要点をまとめてくださったので、長めの講座よりも逆にわかりやすくて良かったです!」「誰にでも関わりがある重要なテーマで、とても勉強になりました。」などの感想が寄せられるなど、多くの方にとって有意義で充実した懇談会となりました。



北海道札幌あいの里高等支援学校PTA会長

覺 間 由 美

実践報告

道南地区懇談会

令和7年8月29日

北海道伊達高等養護学校

テーマ『意思決定支援～お子さんの望む暮らし、社会生活を送るために・・・～』

○講師 廣 澤 佐起子 氏

○講師所属 社会福祉法人伊達コスモス21 ふみだす

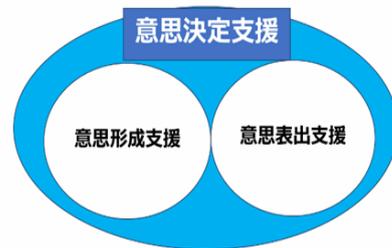
○参加者 37名(内訳：保護者16名、教職員21名)

《内容》

道南地区懇談会は、伊達高等養護学校を会場にハイブリッド形式で実施しました。

講演は、「～意思決定支援～お子さんの望む暮らし、社会生活を送るために・・・」と題して、障がい者福祉サービスの報酬改定、就労選択支援、意思形成支援と意思表出支援、医学モデルから社会モデルへの転換、説得コミュニケーションとリスクコミュニケーションについてのお話がありました。特に、「意思決定の主体」として、意思表示をすることが難しい子どもにも必ず意思があるという視点で関わることの重要性を改めて認識しました。

知的障がい者の意思決定支援のイメージ



本講演を通して、卒業後の社会生活を豊かにするため、保護者や地域と連携し、失敗を恐れずに多様な経験の機会を提供することの大切さを学びました。また、子どもたちが自分の人生を自分で選ぶ主体性を育むインクルーシブ教育の必要性についても認識を深めることができました。

情報交流では、参加11校の特色あるPTA活動紹介があり、和やかな雰囲気の中で交流を深めることができました。



北海道伊達高等養護学校PTA会長

久保田 輝 美

## 実践報告

## 道北地区懇談会

令和7年9月26日  
北海道稚内養護学校

テーマ『子どもの将来を考える

～笑顔で生活するために～』

○講師 水戸 由子 氏

○講師所属 一般社団法人ジャスミン権利擁護センター

○参加者 33名(内訳:保護者14名、教職員19名)

≪内 容≫

今年度の道北地区懇談会は『子どもの将来を考える～笑顔で生活するために～』をテーマに、33名の会員の皆様に参加をいただき、稚内養護学校を会場とし、講演と情報交流を行いました。講師には、昨年度に引き続き、一般社団法人ジャスミン権利擁護センター代表理事の水戸由子氏をお招きし、成年後見制度や権利擁護支援(意思決定支援)等について、丁寧に説明いただきました。

講演では、成年後見制度の理念である自己決定の尊重、残存能力の活用、ノーマライゼーションの考え方について紹介され、成年後見人の義務や後見人が行える具体的業務について詳しくお話しいただきました。

権利擁護支援(意思決定支援)では、意思の形成・意思の表明・意思の実現、人的環境整備(尊重する態度、関係性への配慮)や物的環境整備(物理的な環境によって本人の意思決定に影響を受ける)、信頼関係の構築の大切さについて説明があり、自分で決定するためには、選択肢を認識していること、選択した経験や体験があること、自由に自分の意思を表現できる状況(安心感や自由な感覚)、諦めの気持ちに対する支援が大切であることをお話いただきました。特に権利擁護支援(意思決定支援)については、今から考える必要があることと、早くから取り組むべき内容として、保護者・教職員共に理解が深まる講演となりました。

情報交流では、「卒業生の今」と題し、本校を卒業して一般就労した3名(2015年度卒、2020年度卒、2021年度卒)を紹介し、仕事の様子やインダビューを参加者に視聴いただきました。知的障害併設校においても、一般就労者が少しずつ増えていること、そして長年勤務者として頑張っていることについて、情報共有がされました。

お忙しい中、講演を引き受けてくださいました水戸氏をはじめ、道北地区懇談会に参加していただいた皆様に改めてお礼申し上げます。

北海道稚内養護学校PTA会長

花 田 弘 志

## 実践報告

## 道東地区懇談会

令和7年10月17日  
北海道中札内高等養護学校

テーマ『ぶっちゃけトーク!生活と仕事のリアル

～親への本音～』

○トークセッション 話題提供 卒業生3名

司 会 PTA研修部 武山竜太

○参加者 62名(内訳:保護者24名、教職員38名)

≪内 容≫

今年度の道東地区懇談会は、昨年度に引き続き「一緒に研修をしましょう!」と掲げ、「授業見学」「中札内村でのランチ」「トークセッション」の3部構成で実施しました。午前中に実施した授業見学を通じて、中札内高等養護学校の教育活動を知っていただくこと、作業学習での製品作りなどを通して生徒の取組を知っていただく機会となりました。また、授業見学を行いながら保護者間での積極的な情報交流も行うことができ、非常に充実した活動となりました。

午後からの3名の卒業生によるトークセッションでは、卒業後の生活や仕事について一人一人の思いを話してもらいま



「感謝されると頑張れる気持ちになる」と実際に働き出してから感じた仕事へのやりがいについて語っていただく場面や失敗談や今だから言える学生時代の親への本音も話していただく機会となりました。卒業生からは「悩みを親に知られることがとても恥ずかしかった。」「自分で自分の将来を決めたいと思っていた。」

「不安に思っている気持ちに耳を傾けてくれて嬉しかった。」など、学生時代に抱いていた思いを参加している皆さんと共有する機会となりました。



お忙しい中、トークセッションに協力をしていただきました卒業生を始め、道東地区懇談会にご参加いただきました皆様に改めてお礼申し上げます。

北海道中札内高等養護学校PTA会長

川 股 美 陽 子

## 報告

## 第41回全知P連 東京大会

開催日：令和7年8月23日(土)  
開催地：東京都千代田区  
(JPタワーホール&カンファレンス)

全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会令和7年度第41回全国研究協議大会東京大会は、参集+オンラインの「ハイブリッド形式」で開催されました。

大会テーマ：多様性を認め合い共に育む心のネットワーク  
～すべては子供たちの笑顔のために～

## プログラム

10:00～10:30 開会式

10:30～12:30 全体会

## シンポジウム

\*昼食・休憩\*

13:30～15:30 分科会

15:30～16:00 講評

16:00～16:30 閉会式

## 【全体会】

全体会では、お二人の方から行政説明がありました。はじめに、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官加藤 宏昭様から、「特別支援教育の動向について」中央教育審議会の教育課程の基準等の在り方に関する諮問のポイントという資料を含めて説明をいただきました。また、文部科学省著作教科書(特別支援学校用)についても紹介がありました。

続いて、こども家庭庁支援局障害児支援課障害児支援専門官 縄田 裕弘様から、障害児通所支援の動向に関わって「障害児支援施策の最近の主な動向について」「地域における教育と福祉の一層の連携等の推進について」「これからの障害児支援について」など説明をいただきました。

## 【シンポジウム】

社会福祉法人みなと舎理事長 森下 浩明様、品川区児童相談所児童相談課 煙石 洋一様、福祉番組「ともみとともに」パーソナリティー 林 ともみ様、東京学芸大学特別支援教育臨床サポートセンター 橋本 創一様をシンポジストに迎え、「ウェルビーイングは自己選択自己決定から」～知的障害のある児童生徒の主観的ウェルビーイングと自尊感情・自己肯定感・本来感～をテーマに具体的な事例を交えお話しいただきました。

## 【分科会】

午後からの分科会は、第一分科会「地域との連携～小さな輪から大きな輪へ～」第二分科会「共に学ぶ生涯学習活動～社会全体で子供たちを育む～」第三分科会「安全・安心な場を創る～もしものときに備えるPTA活動～」第四分科会「楽しくつながる～特色あるPTA活動～」に分かれました。

各分科会では、全国2つのブロックからの発表を基に協議を進めました。北海道ブロックからは第2分科会において「子どもたちの『社会参加』のために保護者ができること」と題し札幌伏見支援学校梅澤梓PTA会長が発表をしました。

ここでは第二分科会の発表内容の一部を御紹介します。

## ○地域と学校とPTA

学校運営協議会にPTA会長が出席し、地域の声を聞き、保護者の声を届けることができるようになりました。以前の協議の中の共通キーワードは「本物を体験することができるように」。このキーワードを実現するため、学校と地域、PTAが子ども達の成長のために取り組むことができた活動を紹介し



## ○「もいわ太陽食堂」でのPTA役員会開催

本校運営協議会の委員の一人でもあり、開校以来お世話になっている「もいわ太陽食堂」の店主の協力も得て、「もいわ太陽食堂」で令和5年度第4回役員会を開催しました。当日は、「高等部の生徒が接客、PTA役員がお客様」という設定で、生徒は作業学習の一環として取り組み、PTA役員は会議として様々な議題で意見を交換しました。出席した保護者からは、「普段とは違う中、実施した役員会でしたが向かい合いながら座りとても話しやすく和やかな雰囲気の役員会となりました。高等部の生徒の接客がとても良かった」や「息子が接客サービスの授業を選択しているので今回の役員会楽しみにしていました。生徒さんの接客、暖かい飲み物とお菓子、皆さんとの距離も近く意見も多く出ていた気がします。」などの感想が寄せられました。

全国各地から参加したPTA会員の皆様から、発表に対する温かな御意見や御質問を受けました。また、全国各地のPTAとの情報交流や意見交換ができる大変貴重な場となりました。



## 【閉会式】

最後は、次年度開催近畿ブロックを代表し神戸大学附属特別支援学校PTA会長からの挨拶で閉幕しました。

## 道知P連通信 第88号

編集担当(道知P連事務局〔広報〕)

北海道南幌養護学校

北海道白樺高等養護学校